

2007 年度春季大会の告示

I. 大会の案内

1. 期 日

2007 年 5 月 13 日（日）～16 日（水）

第 4 日（5 月 16 日）

午前：口頭，ポスター

午後：口頭

2. 会 場

国立オリンピック記念青少年総合センター
（東京都渋谷区代々木神園町 3-1）

5. シンポジウム

大会第 3 日（5 月 15 日）の午後に開催予定です。
今回は気象学会 125 周年を記念し、国際シンポジウムを行います。テーマは「次世代の大気科学に期待すること」です。

3. 研究発表

口頭及びポスター形式で行われます。研究発表の詳細につきましては下記「III. 研究発表要領」をご参照下さい。

6. 懇親会

大会第 2 日（5 月 14 日）の夕刻に、大会会場にて開催予定です。

4. 大会日程

大会は以下の日程で行われる予定です。

第 1 日（5 月 13 日）

午前：口頭，ポスター

午後：専門分科会

第 2 日（5 月 14 日）

午前：口頭，ポスター

午後：総会・125 周年記念式典，受賞記念
講演，懇親会

第 3 日（5 月 15 日）

午前：口頭，ポスター

午後：シンポジウム

7. 大会ウェブサイト【2007 年 1 月 16 日（火）開設予定】

本大会では、講演申込み受付や大会プログラムの掲載などを行うための大会ウェブサイトを、2007 年 1 月 16 日（火）より開設する予定です。URL 等の詳細につきましては、気象学会ホームページ（<http://www.soc.nii.ac.jp/msj/>）をご参照下さい。

II. 大会参加手続き

1. 講演を行う場合の参加申込方法

原則として大会ウェブサイト上からオンラインで行って下さい。オンラインで予稿原稿を送付できない場合や、クレジットカードによるオンライン決済ができない場合など、止むを得ない事情がある場合は、郵送による申込を受け付けます。

なお、今回からは大会参加登録・参加費支払済みであることを講演申込資格とさせていただきますのでご注意ください。

1.1 オンラインによる申込

- ・締切：2007 年 2 月 20 日（火）
- ・大会ウェブサイトを参照し、指示に従って申し込みをして下さい。
- ・大会ウェブサイト上で最初に個人情報の登録を行い、ID とパスワードを取得します。この ID とパスワードを元にシステムにログインし、大会参加登録・講演申込・予稿送付・大会参加費決済などを行います。ID とパスワードは次回以降の大会でも同じものが利用できる予定です。

- ・講演申込の前に、予め大会参加登録と大会参加費の払込（クレジットカード決済）をして下さい。大会参加登録と大会参加費の決済が行われていない場合、講演申込は受け付けられません。
- ・予稿原稿もウェブサイトを通じて送付して下さい。ファイル形式はPDF（容量の上限は1MB）に限ります。
- ・講演申込み締め切り（2月20日（火））までは、ウェブサイト上において、一旦申し込んだ講演申込の登録内容の修正や予稿原稿の差し替えなどを行うことができます。ただし講演のキャンセルはできません。

1.2 郵送による申込方法【事務負担軽減のため、なるべくオンライン申込をご利用下さい】

- ・締切：2007年2月13日（火）
（オンライン申込に比べて締切日が1週間早くなっています。ご注意下さい）
- ・以下の3点を講演企画委員会事務局（下記）までお送り下さい。
 - ① 予稿原稿
 - ② 講演者氏名（漢字とローマ字）、会員番号、講演種別、講演者連絡先（住所・電話番号・E-mail アドレス）、講演題目、主・副キーワードと、使用機器を書いたもの（様式は自由です）
 - ③ 郵便振替払込受領証（次項参照）
送付先：
〒305-0052 茨城県つくば市長峰1-1
気象研究所予報研究部内
気象学会講演企画委員会事務局
（封筒の表に「講演申込」と朱書して下さい。）
- ・講演申込の前に、以下の要領に従って郵便振替によって大会参加費を納入して下さい。
 - 一口座番号は「00130-3-5958」、加入者名は「日本気象学会」です。
 - －「通信欄」に以下の項目を記入して下さい
 - ①「日本気象学会 2007 年度春季大会参加申込」と明記
 - ②会員番号（会員でない場合は「非会員」と明記）
 - ③大会参加種別（講演者 A または講演者 B）
 - ④大会参加費金額

⑤懇親会費金額

⑥合計金額

- －「払込人住所氏名」の欄に、住所・氏名・電話番号をもれなく記入して下さい。
- －払込料金は本人負担でお願いします。

1.3 講演のキャンセルについて

- ・講演申込み後は、講演のキャンセルはできません。止むを得ず大会参加や発表を取り止める場合でも、すでに支払われた参加費・懇親会費は返却いたしませんのでご注意下さい。
- ・大会当日に講演者の都合が悪くなった場合の代理発表につきましては、柔軟に対応いたしますので講演企画委員会（kouenkikaku2007s@mri-jma.go.jp）までご相談下さい。

2. 講演をしない（聴講のみ）場合の参加手続き

以下のいずれかの方法で参加費等を納入して下さい。事務負担軽減のため、なるべくオンライン（大会ウェブサイト）による事前登録をご利用下さい。

2.1 オンラインによる申込

2007年4月10日（火）までに大会ウェブサイトに参加登録し、参加費を払い込む（クレジットカード決済）。

2.2 郵送による申込方法【事務負担軽減のため、なるべくオンライン申込をご利用下さい】

- ・2007年4月3日（火）までに、郵便振替で参加費を払い込む。
 - －口座番号は「00130-3-5958」、加入者名は「日本気象学会」です。
 - －「通信欄」に以下の項目を記入して下さい
 - ①「日本気象学会 2007 年度春季大会参加申込」と明記
 - ②大会参加種別（聴講者）
 - ③大会参加費金額（3,000 円）
 - ④懇親会費金額
 - ⑤合計金額
 - －「払込人住所氏名」の欄に、住所・氏名・電話番号をもれなく記入して下さい。
 - －払込料金は本人負担でお願いします。

2.3 大会当日に会場で申込

当日会場で参加登録をして、参加費を現金で支払う（当日料金は前納と比べて割高となっていますのでご注意ください）。

3. 参加費、懇親会費

3.1 大会参加費

- 大会参加費は以下の表の通りです。

大会参加費		
種別	前納	当日
講演者 A	8,000 円	—
講演者 B	5,000 円	—
聴講者	3,000 円	4,000 円

- 講演者の種別：
 - 講演者 A：研究機関・大学に所属する講演者（ただし、学部生・院生は除く）
 - 講演者 B：講演者 A に該当しない講演者
- 講演件数が 2 件の場合も大会参加費は変わりません（講演件数による加算はありません）。

3.2 懇親会費

- 懇親会費は以下の表の通りです。

懇親会費		
種別	前納	当日
一般	4,500 円	5,500 円
学生	3,500 円	4,500 円

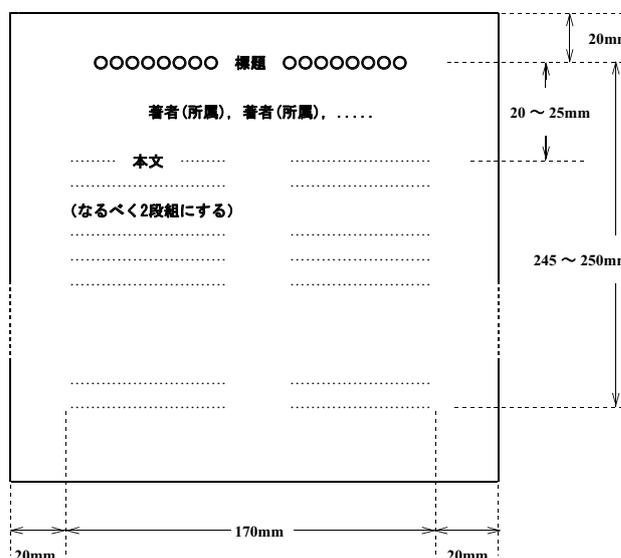
- 懇親会費はオンラインもしくは郵便振替で参加費と同時に前納することが出来ます。また当日会場で支払うことも可能ですが、当日料金は前納と比べて割高となっていますのでご注意ください。

3.3 その他

- 一旦支払われた参加費・懇親会費は返却いたしません。
- 大会参加費・懇親会費の種別は、支払い時点での所属によって判断して下さい。一旦支払われたあとの所属変更などによる種別の変更はいたしません（追加の支払い請求や差額の払い戻しなどは行いません）。

4. 予稿原稿作成要領

- 原稿サイズ・枚数：1 件あたり A4 判 1 枚とします。
- 作成方法：大会ウェブサイトから申込みをする場合のファイル形式は PDF（容量の上限は 1 MB）とします。郵送する場合は A4 用紙に直接出力するか、別紙に作成した文書・図表を用紙に糊付けして下さい。
- 印刷：原稿は B5 サイズに縮小されて白黒でダイレクト製版されます。階調のある写真や図は、明瞭度が落ちる場合があるのでご注意ください。
- 配置（付図参照）：記載範囲は縦 250mm×横 170mm 以内とし、上部には 20mm の余白をとって下さい。最上段に標題，その下に著者と所属を書き，本文をその下につけて下さい。著者が複数の場合には講演者の左肩に*をつけて下さい。標題から本文までの間隔は 20～25mm として下さい。本文はなるべく 2 段組（左半分→右半分）にして下さい。
- 著作権：予稿集に掲載された文章および図表の著作権は（社）日本気象学会に帰属します。



図： A4 判用紙による予稿原稿の作成要領

Ⅲ. 研究発表要領

1. 発表の種類

講演方法には、口頭発表（専門分科会を含む）とポスター発表の2種類があります。

2. 発表件数の制限

1 講演者あたりの発表件数は 2 件以内とします。ただし内容がほぼ同一と見なされるテーマでの 2 件の発表は認められません。この制限に抵触する申込があった場合には、講演企画委員会が適切に対応します。

3. 講演方法の選択について

講演方法（口頭/ポスター）につきましては講演申込時に選択できますが、申込件数や会場の都合等により希望通りにならない場合があることを予めご了承下さい。なお、講演申込時に講演方法の希望がない場合は、講演企画委員会の裁量で振り分けを行います。

4. 口頭発表の概要

口頭発表の講演時間は全て同一とします。1 件あたりの講演時間は、口頭発表に配分された時間の総計を申込件数で割ったものを目安として講演企画委員会が決定し、大会プログラムに掲載します。

5. 専門分科会の概要

- ・専門分科会は、大会第 1 日（5 月 13 日（日））の午後に開催予定です。
- ・専門分科会の各講演の講演時間はコンビーナーが決定し、大会プログラムに掲載します。
- ・専門分科会への講演申込み締切日は一般講演と同じ（オンライン申込は 2 月 20 日（火）、郵送申込は 2 月 13 日（火））です。
- ・専門分科会に申し込まれた発表については、コンビーナーが予稿を審査して、専門分科会での発表を認めるかどうかを判断します。
- ・専門分科会に申し込まれた発表が、コンビーナーによって専門分科会に適さないと判断された場合には、一般発表に振り替えます。
- ・各専門分科会の詳細につきましては、「Ⅳ. 専門分科会のテーマと趣旨」をご参照下さい。

6. ポスター発表の概要

- ・ポスター発表の時間は 1 時間程度とします。ポスター発表の時間には他の行事は行われません。
- ・ポスターの掲示・撤去は、講演者の責任で行って頂きます。
- ・掲示スペースは縦 150 cm×横 180 cm 程度です。なお、ポスターは大きな紙 1 枚に書く必要はなく、小さい紙に分けて書いたものを当日並べて掲示しても構いません。

7. 講演における機器の使用について

- ・口頭発表（専門分科会を含む）につきましては、PC プロジェクターと OHP が使用できますが、それ以外の機器は使用できません。
- ・OHP を使用したい場合は、講演申込時に届け出下さい。講演申込時に届けがけない場合は PC プロジェクターを用いた発表とみなします。
- ・PC プロジェクターを使用する場合は、以下の点に留意して下さい。
 - ーパソコンは各自でご準備下さい。会場にはプロジェクター及び接続ケーブルのみを準備します。
 - ーセッション開始前の休憩時間などを利用して、必ず接続の確認を行っておいて下さい。接続に不安がある場合は、その際に会場係に申し出下さい。
 - ー突然の故障や接続の際のトラブルが発生した場合、座長の判断で発表順の繰り下げや OHP による発表への切り替えなどをお願いする場合があります。このため、最低限の発表が出来るだけの OHP シートも用意しておいて下さい。
- ・ポスター会場での機器の使用を希望する場合は、機器の名称およびその使用方法を、講演申込みに届け出てください。ただし会場の都合により、その要望が受け入れられる保証はありません。
- ・ポスター発表への申し込みをする場合も、プログラム編成上の都合により口頭発表に振替になった場合を想定して、口頭発表時の使用機器の届出をお願いします。

8. その他

- ・申込まれた予稿の内容が、(ア) 気象学とは全く無関係である、(イ) 極めて非合理的・非論理的である、(ウ) 他者を誹謗中傷する部分がある、等の理由により、講演を認めることが適当でない講演

企画委員会が判断した場合には、講演を認めないことがあります。

- ・大会プログラムは「天気」4月号及び大会ウェブサイトに掲載されます。

IV. 専門分科会のテーマと趣旨

2007年度春季大会では下記の通り、3件の専門分科会が開かれます。

1. 「小規模じょう乱から気候変動の観測まで

ー可搬型気象レーダーの現状と将来展望ー

趣旨：毎年、様々な観測機器を駆使した大規模な観測プロジェクトが国内外で活発に行なわれています。その観測ツールの中核を担ってきたのが、降水現象を観測する可搬型気象レーダーです。可搬型気象レーダーの対象は、竜巻やダウンバーストのような小規模じょう乱から、積乱雲、台風、梅雨前線、海上の降雪雲など、多岐にわたります。さらに最近では、熱帯の対流雲を気候変動の励振源として着目し、その長期変動を観測する試みも始まっています。そこで、可搬型気象レーダーに関する最新の観測事例やその成果について情報交換を行うことを目的に、表題の専門分科会を企画しました。可搬型気象レーダーにより、何が明らかになり、どんな新事実が発見されてきたのか。これから今後どのような役割が期待されるのかをみんなで議論します。また、可搬型気象レーダーは様々なノウハウを必要とする大掛かりな観測装置です。レーダーの開発、改造、運用、何がポイントで何が重要なのか、検証したいと思います。上記のような研究事例をご紹介頂ける方に、招待講演の形で口頭発表して頂きます。一般公募は行いませんが、発表を希望される方は、下記コンビーナー代表者にお問い合わせ下さい。なお、近年気象の分野で使用されるレーダーにはウィンドプロファイラなども含め多くの種類がありますが、今回の分科会では降水現象を対象とする気象レーダーに限ることにします。

コンビーナー：楠 研一(気象研究所)、上田 博(名古屋大学地球水循環研究センター)、牛山朋来(海洋研究開発機構地球環境観測研究センター)、小林文明(防衛大学校)、真木雅之(防災科学技術研究所)

連絡先：〒305-0052 茨城県つくば市長峰 1-1
気象研究所 台風研究部 楠 研一
TEL:029-852-9164, FAX:029-853-8735,
E-mail: kkusunok@mri-jma.go.jp

2. 「大気リモートセンシングデータ解析技術における工夫」

趣旨：近年、衛星搭載センサーや地上リモートセンシング技術の向上により、これまで検出が難しかった新たな大気物理量の抽出が可能になりつつある。これらは単に検出器の技術的な向上のみならず、データ解析手法における様々な工夫が為されたものである。あるものは統計的手法の最適化で対象物を選択的に抽出したり、またあるものは一つの物理量を加えることで識別が難しかった2つの物理量の分離が可能になったりと、他分野での応用の可能性も秘めるキー技術を用いている。本分科会は、このようなリモートセンシングデータの解析技術について、“なるほど”と思われる工夫を紹介しあい、基本技術や観測対象の異なる研究者間で、新たな工夫や応用に繋げるための情報交換の場としたい。発表は衛星ー地上、能動ー受動、物理・化学ー力学を問わず、ある特定の物理量を抽出するために特に工夫を凝らし、おもしろいと思えるものであれば何でも歓迎である。

コンビーナー：今須良一、齋藤尚子(東京大学気候システム研究センター)、笠井康子(情報通信研究機構)、杉本伸夫(国立環境研究所)

3. 「チベット高原気象学の進展」

趣旨：チベット高原周辺の気象に関し、高原上昇に伴う周辺アジアの気候形成、熱力学作用に伴うアジアモンスーン循環への影響、地表面状態に応じた大気陸面過程、複雑地形による局地循環と降水の日変化、中緯度循環場との相互作用など、様々な角度から研究が進展している。近年は地上観測網や衛星観測データも整備され、シミュレーションや再解析データとともに、このような遠隔地における多くの物理過程が明らかになりつつある。本分科会では、従来各セッションで断片的に発表されてきたこれらの研究成果を“チベット高原・

ヒマラヤ山塊”をキーワードとする同一セッションで横断的に議論することにより、様々な時空間スケール・地域性を有する現象の相互作用に関する理解を深め、チベット高原の大気循環場への影響に関する総合的な理解を目指す。

コンビナー：上野健一（筑波大学大学院生命環境科学研究科）、里村雄彦（京都大学大学院理学研究科）、阿部 学（名古屋大学大学院環境学研究科）、栗田直幸（海洋研究開発機構地球環境観測研究センター）、佐藤友徳（東京大学気候システム研究センター）

V. 非会員の大会講演について

気象学会会員でない方は原則として大会講演を行うことは出来ません。しかしながら、短期滞在の外国人や他分野の研究者が気象学会において講演を行う場合を考慮して、講演企画委員会では以下の規定を満たすものに限り非会員が大会講演を行うことを認めています。

1. 共著者の中に会員が含まれていれば、非会員の講演を認める。

2. 上記規定を明確にするために、講演申込用紙に講演者の会員番号（非会員は会員である共著者の会員番号）の記入を義務づける。

なお、講演企画委員会としては、継続的に大会発表を行いたい人には会員になって頂くよう強く要請します。

VI. 研究会活動への支援について

講演企画委員会では、大会期間中またはその直前・直後に会員が自主的に運営する研究会活動に対し、一般の会員が自由に参加できることを条件として、可能な支援をします。支援を希望する方は、右記の事項を明記の上、講演企画委員会（E-mail: kouenkikaku2007s@mri-jma.go.jp）へ申し込んで下さい。

申込先・申込期限：大会の一般講演と同じ

- 記入事項：
1. 会の名称とテーマ
 2. 代表者の連絡先
 3. 希望日時・開催場所
 4. 予想参加人数
 5. 希望する支援内容

VII. 大会期間中の保育支援について

大会では、大会期間中の保育室の設置と斡旋を予定しております。詳細につきましては、大会ウェブサイトをご覧ください。